

「離れた場所から行うノートテイクの支援」について

現在、通常の小・中学校に通う聴覚障がい児の多くは、情報保障を受けながら授業に参加しています。情報保障の方法は、FMシステムの使用、学校生活支援員などによるノートテイクなどがあります。その中のノートテイクは、音声を文字にする方法の一つで、学校生活支援員などの配置が行われる場合、よく用いられている方法です。音声の情報を文字にする場合、表すことができる情報は約2割から3割であり、ノートテイクのみでは十分な方法にはなりません。よって、様々な補償手段を組み合わせる行うことが不可欠です。

一方で、ノートテイクの技術的なことではなく、支援員が教室に入るスペースを確保できにくいことや、対象児童生徒がノートテイクの情報をうまく活用できていないという問題点も耳にします。特に、小学校高学年から中学生にかけて多く聞かれるのが、児童生徒が支援を遠慮したり、パソコンやホワイトボードを見ないといった問題です。

ノートテイクでは、ノートテイクである支援員が情報保障を受ける児童生徒の隣に座り、パソコン入力、またはホワイトボードやノートへ手書きするのが一般的です。実はこの時に、小学校高学年から中学生になると、支援員が近くに居ることで、他の児童生徒の手前恥ずかしいと感じたり、ずっと見られていて息が抜けないと感じたりして、支援員を「拒否」する場合があります。支援員にしっかりノートテイクをしてほしいという保護者のニーズとは逆に、児童生徒によっては「授業が分からなくてもいいから先生(支援員)は向こうに行ってほしい」という気持ちがあることも確かでしょう。困っていないわけではないけれども、自分だけ違う環境で授業を受けていることについて抵抗を感じている訳です。児童生徒の考え方の甘さ、障がい認識や自己理解の欠如を指摘するのは簡単ですが、それだけでは解決しないのも事実です。

こうした問題は、「ノートテイクが生徒のそばにいない環境」を作るだけで有効な対応になることもあると思われます。今回、ある中学校の先生から、その取組について御紹介いただきましたので、ここに掲載させていただきます。

要約筆記の画面をタブレットに転送する方法(Bluetooth接続を利用)

【使用機器】

- A タブレット (アンドロイドOS: 7インチ)
(10,000~20,000円程度)
- B ワコム製 Bamboo Slate small
《手書き入力装置》 (17,000円程度)

【事前準備】

- タブレットには InkSpace というアプリ
(無料)をインストールしておきます。

【手順】

- 1 支援者は、紙(ノート)を手書き入力装置
(B)の上に置きます。
- 2 支援者は、専用ペンでノートに文字を書きます。



ワコム製 Bamboo Slate small

- 3 書かれた文字がリアルタイムで、生徒の手元のタブレット（A）に表示されます。
- 4 生徒は、それを見て授業の流れや内容を確認したり理解したりします。

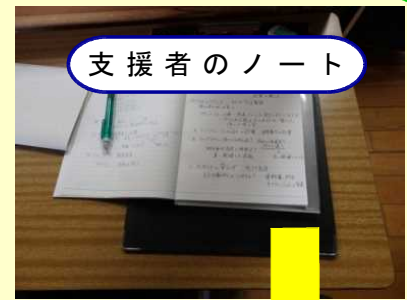
【利 点】

- 1 軽量で教室移動もスムーズにできます。タブレットは、机の広さから7インチが適切とのこと。
- 2 長時間駆動します（A B共に約8時間）。
- 3 コードレスのBluetooth接続です。10m程度離れても通信でき、教室内なら充分可能です。
- 4 Wi-fi環境や携帯電話会社との契約は不要です。
- 5 比較的安価に機器が準備でき、ランニングコストとは、専用ペンの替え芯3本で1,296円（月に2～3本の使用を想定）程度です。

【補 足】

写真は、実際に中学校で使用している7インチのタブレットと手書き入力装置です。御紹介いただいた先生によると、いろいろ試行錯誤した結果、現時点ではこの方法が最善であるとのことでした。特に、入力装置は普通のノートが使用でき、簡単な操作で新しいページに切り替わる点が良いそうです。

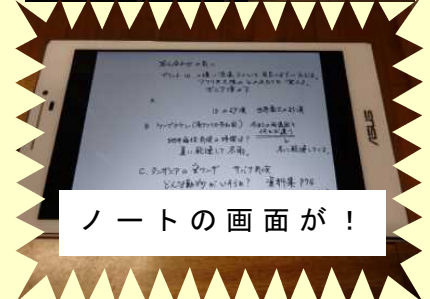
みみちゃん担当者も、ランニングコストがかからない点が学校で採用するには実用的で、非常に使い勝手の良いシステムだと感じました。



支援者のノート



生徒のタブレット



ノートの画面が！

おまけ パソコンの画面をタブレットに転送する方法(Wi-fi環境を構築)

3年程前に、みみちゃん担当者がネットで検索して調べたり、当時のインクルーシブ教育システム構築事業の研修で教えて頂いたりもして自分でやってみた方法です。小・中学校等にも紹介いたしましたが、採用は「ゼロ」でした(-_-)。

【使用機器】

- A タブレット（アンドロイドOS）
（10,000円ぐらいから）
- B ノートパソコン（ウィンドウズOS）
（25,000円ぐらいから）
- C Wi-fiルーター（4,000円ぐらいから）

【事前準備】

- タブレットとパソコンに Komado というアプリ（無料）をインストールしておき、接続環境を設定します。

【手 順】

- 1 支援者はパソコンのワードや一太郎、メモ帳等で文字を入力します（パワーポイントの画面等も映せます）。
- 2 パソコンの画面が、生徒の手元のタブレットに表示されます。

【利 点】

タブレットをパソコンのサブモニタにするソフトを用いています。基本的には、簡易さや費用面など手書き入力装置を用いる方法と変わらないと思います。Wi-fi環境の設定も面倒ではなく、インターネットを利用する訳ではないので、プロバイダや携帯電話会社等との契約は不要で、ランニングコストはほとんどかかりません。パソコンの画面がそのままタブレットに映る点は便利です。



パソコンからルーターを経て、タブレットへ

自立活動の授業から・・・社会で活躍するろう者

先日、小学部6年松組の自立活動で、「社会で活躍するろう者」についての授業を行いました。鉄道写真家である持田昭俊さんのインタビューを収録したDVDを視聴し、持田さんがプロの鉄道写真家を目指すまでのことや、写真家になってから工夫していることなどについて学習しました。この体験談は、中学生以上の生徒や大学生を対象としているようですが、6松の児童は、それぞれが持田さんの話をよく「見」て、自分の感想を持つことができました。

Aさん・・・持田さんが「プロのカメラマンになりたい。」と言って、先生と親に「お前は無理だ。」と言われてもあきらめずにやり続けて成功することができたので、ぼくもそうしようと思います。

Bさん・・・持田さんはしょうらいの夢を大切にずっと持っていたので、プロのカメラマンになれたから、私も今考えているしょうらいの夢を持っていればなれるのかなと思いました。

Cさん・・・持田さんは、好きなことを一つだけにしぼるのではなく、何でもたくさんしようって言っていて、ぼくは、今までのことをふり返ると、一つだけにしぼっていたので、様々なことをするようにしたいです。



みみちゃん担当者が印象に残ったせりふです。どちらも「そうだなあ」と思います。



「第13回 さがの映像祭」について

「さがの映像祭」は2004年より開催されている聴覚障がい者の作品を募集し、公開する映像祭です。第13回目になる今回の案内が届きましたのでお知らせいたします。

日時：2017年1月28日（土） 13：00～18：00
29日（日） 10：00～18：00

場所：同志社大学寒梅館ハーディーホール

入場料：2日券 1,500円、1日券 1,000円

詳細は、全国手話研修センターのHPを御覧ください。パンフレットは、本校聴能言語室入り口にあります。

シバントス株式会社・Signia 補聴器奨学生募集の御案内

シバントス社は、昨年度に引き続き「補聴器奨学生」を募集します。

- 対象：小学生から大学生（24歳まで）の難聴者。
- ※ 医師から難聴の診断を受けている人で、身体障害者手帳の有無は問いません。
 - ※ シバントス社指定の補聴器販売協力店で、継続的に補聴器の調整が受けられることが条件です（愛媛県ではメガネのタナカ本店、アズマ補聴器、補聴器センター辻が販売協力店になっています）。
- 機種：シーメンス補聴器の中から、聴力ニーズに適した製品を支給する。
- 注意：電池、イヤモールド、保証期間終了後の修理は、個人負担となる。
- 申込：WEBにて申し込み（シバントス社ホームページ（下記に記載）より直接入力する）。

これは、最新のシーメンス・シグニア補聴器を無償で支給してもらえというもので、抽選で140名が対象となります。

×切りは2月28日、当選連絡は3月下旬、補聴器の支給は5月末までに行うようになるとのことです。

「聲の形」の石田将也と西宮硝子が描かれた募集パンフレットは、本校聴能言語室入り口にあります（ちなみに、二人が手にしているのはシグニアブランド初の補聴器「プライマックス」です）ので、興味がある方は、御自由にお取りください。また、申込みは、それぞれで行っていただきますようお願いいたします。

補聴器奨学生申込ホームページアドレス
<https://www.signia.jp/shogakusei/>

シグニア Signia 補聴器奨学生
2017年度は140名募集します!

「声の形」の石田将也と西宮硝子が描かれた募集パンフレットは、本校聴能言語室入り口にあります。

シバントス1周年+シーメンス補聴器としての138年の歴史にちなみ、139名の補聴器奨学生を募集させていただきます。2016年にスタートした「補聴器奨学生」は、厳正な抽選のうえ、当選された学生の皆様に弊社補聴器を無償でご提供させていただくプログラムです。2017年度は1名定員を増やして140名の補聴器奨学生を募集することになりました。ぜひ1人でも多くの難聴者が必要とする学生の皆様へ、費用の負担なく最新補聴器をご活用いただくことでより良い未来を切り開いていただければと思います。

映画「声の形」は2016年9月より全国公開された映画で、聴覚の女の子と、男の子の心の交流を描いた話題の漫画が原案にされた作品です。聴覚者への理解が深まり障害者の認知度が向上することもあって、シーメンス・シグニア補聴器が話題のきっかけとなりました。

編集後記

「みみちゃん」第73号をお届けいたします。1～2ページにまとめている「離れた場所から行うノートテイクの支援」では、I市立A中学校のH先生の取組を紹介させていただきました。音声文字にする形の情報保障の方法は、入力及び修正を併用する形のパソコン要約筆記や、音声認識技術を用いるUDトークのようなものもあり、技術的には精度が高くなっています。一方、機器の取扱いやランニングコストの点から、現状では、小・中学校等で即利用するには課題が多く、まずは現在、支援の中心となっている学校生活支援員によるノートテイク等が有効に生かされるようにするにはどうすればいいかを考える必要があると思います。その上で、ノートテイクを受けることを通して児童生徒自身が「自分に合った情報保障とは何か。」や「情報保障を自ら求める姿勢」、そして「情報保障を支えてくださる方々への感謝の気持ち」を考えることができるような促しが、周囲にいる保護者や教員に求められているように感じます。